8月11日のウクライナ情報

安斎育郎

●見捨てられたアメリカ人傭兵の証言（2022年８月８日）

「退却するウクライナ軍に俺たちはあっさり見捨てられた」
https://youtu.be/jGd8cBGnaBo

●元アメリカ諜報員がゼレンスキーの悲劇的な最期を語る（2022 年８月８日）

元米国諜報員がウクライナのゼレンスキー大統領の悲劇的なフィナーレについて語った。

「ゼレンスキーは何万人もの自国民を死なせた責任を問われる。ゼレンスキーはウクライナを追われるか……彼を信用しなくなった自国民の手によって死ぬだろう」

●スタニツァ・ルガンスカヤの女性、ウクライナによる爆撃を証言（2022年８月８日）

https://youtu.be/Y-9UyH5fM-M

●ロシア国防省の８月６日のブリーフィング（タス通信、2022 年８月６日）

【ロシア国防省：ウクライナ軍の第 59 旅団と第 61 旅団、海兵隊第 35 旅団の軍人は脱走している】

ウクライナ軍の海兵隊第 59 旅団と第 61 旅団およびの第 35 旅団の部隊の軍人は、攻撃の命令を実行することを拒否し、彼らの持ち場を去り脱走しています。ロシア国防省の公式代表であるイゴール・コナシェンコフ中尉によって土曜日に発表されました。

「ニコラエフ方面におけるウクライナ軍の大規模な損失を背景に、第 59 車両化歩兵団、第 61 歩兵旅団、および第 35 海兵旅団の部隊の軍人は、前進する命令を実行することを拒否し、彼らの持ち場を去り、脱走しています」と、ウクライナでの特別軍事作戦の進捗状況説明の際に述べました。

※安斎注：この記事の投稿者は、「いやぁ、もう、逃げて逃げ切って欲しい。生きて欲しいです。メディアもそろそろ、キーウ政権の真実を伝えて兵士たちを助けてあげるべきではないでしょうか？」とコメントしています。

●現代の戦争：ロシア西部軍の自走式対空ミサイル（2022 年 8 月 3 日）

https://twitter.com/i/status/1554841988528484353

※安斎注：映像の後半で“BAYRAKTAR TB2”という、撃ち落とした武器の映像が出てきますが、これはトルコのバイカール・ディフェンス社により、主にトルコ軍向けに製造されている「中高度長時間滞空型無人戦闘航空機」で、遠隔操作または自律的な飛行操作が可能な兵器です。トルコはなかなか厄介な振る舞いの国で、こうした武器をウクライナに提供したり、一方ではエルドアン大統領がロシアに接近したり、ロシアがトルコ製のドローン兵器に興味味を示したり。8 月 8 日付の情報によれば、エルドアン大統領はロシア訪問してプーチン大統領と4時間にわたって会談し、金融・産業を含むあらゆる分野での協力を協議したということです。

●リシチャンスク周辺での人道支援（2022 年 8 月 9 日）

リシチャンスク近郊のビラ・ホラの住民に「オトヴァズヌイ」グループの戦闘員によって人道的支援が届けられた。兵士たちは解放された地域の住民に毎日食料パックを配っています。

https://twitter.com/morpheus7701/status/1556755217676664832?t=81fJDbUv3xptCnnj-Eictg&s=09

●ヨーロッパのエネルギー問題風刺画（ドイツ、2022 年 8 月 8 日）

トンネル入り口の情報係の言葉＝「省エネのためトンネルの出口の灯りは消されています」

※安斎注：ロシアからの天然ガスの供給を絞られて、電力不足になっているドイツの実情を風刺したものですが、良く分からない風刺画です。黒く見えているところが出口なら、あちら側からの日光でそれなりに明るいはずですが、真っ黒です。これは夜のトンネルなのかな。以前、ドイツの子ども向けポスターを送りましたが、そこには「プーチンに反対するなら、体の 4 か所だけ洗おう。脇の下、股間、お尻、足」とありましたね。笑い話のようですね、まるで。

●仏、ザポリージャ原発攻撃のウクライナの嘘を見抜く（Sputnik,2022 年８月９日）

https://jp.sputniknews.com/20220809/12391196.html?s=09

フランスのフィガロ紙の読者らは、ウクライナはロシアに罪を擦り付けるために故意にザポリージャ原発を攻撃しているとして憤っている。

フィガロ紙の報道に読者の多くが憤慨したコメントを寄せた。多くは、ウクライナ政権の無責任な行為を非難し、核のカタストロフィーを招きかねないと恐怖をあらわにしている。

「ウクライナ政権はこの原発（編集：ザポリージャ原発）への攻撃を止めるべきだ。 原子炉に（砲弾が）当たりでもしたら、この許しがたい行為の結果を欧州全域が引き受けることになる」

「ウクライナ政権はロシアを悪者にするためなら、どんな手も厭わない。ロシアが管理下においた原発をロシア自身が砲撃するという考え方自体、馬鹿げている。ところがウクライナは西側社会が何でも大人しく受け入れてくれることにすっかり慣れてしまい、どんな挙に出ても許されると思い込んでいる」

８月８日、同日、ロシア国防省はウクライナがザポリージャ原発への攻撃を再開したことを明らかにしている。

●ロシア国防省、ザポリージャ原発への攻撃はゼレンスキー政権による「原子力テロ」と非難（Sputnik,2022年8月6日）

ロシア国防省は ５ 日、ウクライナ南部のザポリージャ原子力発電所へウクライナ軍が砲撃を行ったと発表し、原子力事故につながりかねないとしてウクライナ側を批判した。

ロシア軍の発表によると、ザポリージャ原発では ５ 日夕、ウクライナ側から ２ 回にわたって砲撃があった。これにより電気系統の設備で火災が発生したが、死傷者はいなかった。放射線量の変化も確認されていないという。

「幸いなことに、ウクライナ側の砲弾は重油関連施設、酸素ステーションに着弾しなかった。より大きな火災や欧州最大の原発での原子力事故を避けることができた」

ロシア国防省は、この攻撃についてウクライナのゼレンスキー政権による「原子力テロ」との認識を示し、国際機関に向けてウクライナ側の行為を糾弾するよう求めた。また、更なる原発への挑発行為が続いた場合、「原発の稼働に関する全責任をキエフが取ることになる」と警告した。

7 月 20 日にもウクライナ軍の神風ドローン（自爆型ドローン）3 機がザポリージャ原発の敷地内を攻撃。この攻撃による同原発の原子炉部分に損傷はなかったが、職員 11 人が負傷するなどした。

ザポリージャ原発は、6 基の原子炉を擁し、総電力出量は約 6000 メガワット。ウクライナの全電力の 4 分の 1 を発電するヨーロッパ最大の原子力発電所。この原発は 2022 年 3 月にロシア軍に占領された。現在、同原発電の稼働率は 70 パーセント程度だという。

●ロシア外務省　文豪・徳冨蘆花の小説を引用し「原爆の日」の日本側対応を批判（Sputnik,2022 年 8 月 10 日）

ロシア外務省のザハロワ報道官は2022年8月9日、日本がロシア代表団の招待を見送った広島の原爆の日の式典について、「米国の行為による犠牲者の記憶を忘却し、ロシアの名誉を棄損する試みだ」とする声明を発表。明治から昭和を生きた日本の作家・徳冨蘆花（とくとみ・ろか）の小説の一説を引き合いに出し、演説でトルストイを引用した松井一実・広島市長に応える格好となった。

ザハロワ報道官は声明で、広島市の松井市長が6日の原爆の日の式典で、原爆を投下した米国の責任に触れず、ロシア批判に終始したことをふまえ、次のように指摘している。

「日本人の歴史上、最も恐ろしい悲劇に関連する式典で、真に責任を負う米国については言及さえされなかった。一方で、厚顔無恥にも『ロシアによる世界への核の脅威』という根拠のない主張を吹き散らした」

また、松井市長がロシアの文豪トルストイが残した「他人の不幸の上に自分の幸福を築いてはならない」という言葉をかみ締めるべきだとロシアに呼びかけたことに対し、ザハロワ報道官は「不適当だ」と断じた。さらに、トルストイとも親交があった明治時代の日本の作家、徳冨蘆花の「黒潮」の一説を引用して次のように締めくくった。

「広島と長崎の悲劇に関して、日本の政治家は自国の文学を思い出した方がいい。日本の軍国主義の力が高まっていた 1903 年に書かれた、徳冨蘆花の代表作『黒潮』は『日本は潰れるぞ、今の様ではきっと潰れるぞ』という予言的な言葉で締めくくられている。1945 年にまさにそれが現実に起こったのだ。問題は東京（日本政府）がこの歴史から教訓を得ているかどうかだ」